# 令和６年度学位記授与式・修了式式辞

令和７年３月２２日（土）
アルビス小杉総合体育センター

本日、新田富山県知事を始め多くのご来賓の皆様をお迎えし、令和６年度富山県立大学学位記授与式・修了式を挙行いたしますが、これも、ご来賓の皆様をはじめ、これまで本学の教育と研究を支えてくださった多くの関係の皆様のご支援、ご尽力の賜であり、教職員を代表し、心から御礼を申し上げます。

そして、今日の日を迎えられた工学部と看護学部、大学院工学研究科と看護学研究科、並びに、看護学専攻科、610名の卒業生、修了生の皆さんとご家族の、今日の卒業、修了のためのご尽力に心より敬意を表します。

研究や教育や大学運営に携わった大学教職員にとって、皆さんが卒業、修了の日を迎えることは私たちの誇りであります。大学の宝物は皆さんであり、社会で活躍する卒業生に将来会ったとき、教職員はきっと充実感を覚えます。

私が若いころ、学長の仕事は入学式、卒業式の式辞を書くことだと聞いていました。現在では、学長の重要な仕事に大学運営なども追加されましたが、やはり、式辞は学長にとって、とても重要なメッセージの発信です。卒業、修了する皆さんだけでなく、大学教職員に向けて、そして、大学をとりまく社会へのメッセージでもあります。そこで、私が若いときから学生に伝えてきた言葉のうち、評判のよかったものをいくつか紹介し、私から皆さんへの期待としてお伝えいたします。

今年度末の私の大学からの引退を機に、先日、私を指導教員として卒業した人たちが集まってくれました。同窓会のような盛り上がりでした。そこで、当時、学生であった人たちに今も記憶に残る私の言葉をまとめて下山語録集としてプレゼントしてくれました。

その中から、全部で３つ紹介します。１つ目は、「君の頭で、よーく考えてみて」です。その言葉は学生が言うには、「学部４年生が研究テーマを考える際によく耳にした言葉です。大学に入り研究室に入るまでは、基本的には座学のみで、誰かが考えた概念を習得することに時間を費やします。しかし、研究室に入った後は、新たに知恵を生み出す行為に取り組みます。でも、４年生はそのギアチェンジになれておらず、答えを外部に探そうとします。そんなとき先生（、下山ですが、）は、「あなたの頭」を使ってアイディアを生みだしなさい」と諭してくれました、と話していました。

皆さんも、本学で、「あなたの頭」でよく考える訓練をしたと思いますが、まだ、道半ばだと思います。課題に出会っても、ほとんどの場合、PCを使って情報を検索すると課題解決らしきものを得ることができます。しかし、それはあなたでなくともできる方法です。皆さんはさらに一歩踏み込んで、これまでの知識、経験を活かし、皆さんならではの独創的な課題解決に行きついてもらいたいと期待しています。それが、「あなたの頭でよく考える」ことです。

２つ目は、「最善の手を尽くせば、おのずと道は開けてくる」です。当時、学生としてこの言葉を受け止めた人のコメントは次のとおりでした。「今すぐに結果に結びつかずとも、最善の布石を打っておけば、道が開けていくということで、これは実際にそうでした。

忙しいとき、厳しいときでも、先を見通して、次につながる手を打つことが、頑張って生きていくことなのかもしれません。」と話してくれました。

このコメントに、私はさらに付け加えたいことがあります。目的を設定したとき、その目的に到達する方法、さらに、あなたが寝食を忘れて没頭できる方法を、見つけて進んでください。有能な指導者から聞いたり、あるいは自分自身の感覚を磨いたりして、最善の手を見つけて進むことです。最善の手は、AIが教えてくれるかもしれません。しかし、その方法を実行して目的に到達できるのは指導者やAIではなくあなたなのです。付け加えて、やみくもに時間を使うのではなく、効果的に時間を使ってください。

３つ目は、「ストライクゾーンに投げ込め」です。これは、こんな状況で使った言葉ということです。「論文や申請書を書いているときに、よく耳にしたなじみ深い言葉です。つい、学生の頃は、よい研究をして豪速球を投げ込める人間になりたいと思いがちです。そうした見識のない若さをたしなめ、相手が求められていることを正確に把握し、そこに適切なボールを投げ込めば結果はついてくるぞ、というあたたかな叱咤でした。」とのことでした。

卒業後、皆さんは、提案書や申請書を書いたり、その内容をプレゼンしたりすることになります。その書類やプレゼンの評価は、評価のガイドラインにそって評価者が行いますが、ガイドラインが公表されていることがよくあります。それをまずよく理解して、そこに投げ込めるような能力を身に付けてください。ガイドラインのストライクゾーンを確かめず、むやみにボールを投げても暴投になって受け止めてもらえません。皆さんの思いを実現する手段としてのプレゼンであるなら、まずは、ストライクゾーンを確かめることです。

最後に、式辞でこれまでにもお話してきた、卒業後にも励んでいただきたいことを３つお話しいたします。

１つ目は国際性を磨いてください。就職や進学先で出張などの機会を見つけて積極的に日本の外に出てみてください。テレビやインターネットを通して得られる情報よりも、出張先での話や実体験は皆さんにとってインパクトの大きなものだと思います。私たちの社会はもはや国際的な関係なくして存続できなくなっています。言葉を流暢に話せるより重要なことは、自分自身が相手に伝えたいこと、知りたいことを、しっかり持つことです。伝えたいこと、知りたいことがあれば、最初は勇気がいるかもしれませんが、コミュニケーション能力は時とともについてきます。

２つ目は多様性の理解です。世界には、様々な民族や宗教、価値観があり、対立が争いに発展する例を、私たちは歴史的にも現在のニュースでも見てきました。平和で安定した社会のために多様性を理解し、できることがあれば取り組んでください。

３つ目は卒業生としての富山県立大学への愛着です。在学中に培った友人や教員とのネットワークは、社会に出ても価値のあるものでしょう。仕事で行き詰ったら、大学を訪ねて相談してみてください。富山県立大学の教員は、解決策を提案したり、アドバイスしたりできます。

卒業、修了する皆さん、卒業式を英語ではcommencement、「始まり」ということがあるようですが、今日は、皆さんの努力が結実した締めくくりの日であると同時に、次のステ

ップに進む「始まり」の日でもあります。私も富山県立大学の学長を３月末に退任後は、皆さんと同じく、新たな活動を始めます。皆さんは、地域社会や、日本や、世界を変革する力を持っています。ビジョンを持ち、そのビジョンに従って進み、これからも研鑽を続けてください。皆さんの、独創性と価値のある活躍を富山県立大学の教職員はみな応援しています。皆さんとご家族に敬意を表しながら、私の言葉を結びます。

令和７年３月２２日

富山県立大学学長　下山　勲